

資料

2023年度の食中毒（疑い）事例について

片宗千春・カール由起・近藤典子・上田紗織・重村洋明・江藤良樹・芦塚由紀
古谷貴志・小林孝行・吉富秀亮・金藤有里・濱崎光宏

福岡県において2023年度に発生した細菌性・寄生虫性・ウイルス性食中毒（疑い）事例は 31 事例であり、病理細菌課とウイルス課で検査した検体は延べ 302 検体であった。検出された食中毒細菌、寄生虫及びウイルスはカンピロバクター属菌、腸管出血性大腸菌、ウェルシュ菌、黄色ブドウ球菌、クドア及びノロウイルスであった。病因物質（病因物質と疑われる物質）が検出された事例は 31 事例中 22 事例（71.0%）であった。

[キーワード：食中毒、カンピロバクター属菌、ウェルシュ菌、腸管出血性大腸菌、クドア、ノロウイルス]

1 はじめに

福岡県（北九州市、福岡市、久留米市を除く）における過去5年間の年間食中毒（疑い）事例での検査依頼数は、2018年度が 31 件、2019 年度が 18 件、2020年度が 13 件、2021年度が 10 件、2022 年度が 29 件と推移している。今回、福岡県における食中毒予防対策に資することを目的とし、2023 年度に福岡県内で発生、または、県民が他の都道府県で罹患し当所に検査依頼のあった食中毒（疑い）事例について、主として病因物質の観点から資料としてまとめた。

2 検査方法

2023 年度は、31 事例 302 検体について、喫食者便、従事者便、食品、拭き取り、菌株などを対象に食中毒細菌・寄生虫検査及びウイルス検査を実施した。各検査の処理検体数は、細菌検査が 286 検体、寄生虫検査が 13 検体、ウイルス検査が 216 検体であった。患者の症状などから細菌性食中毒が疑われる場合は、まず搬入された検体から食中毒細菌を検出するため、SS 寒天培地、TCBS 寒天培地、エッグヨーク食塩寒天培地、スキロー改良寒天培地、クロモアガーサルモネラ寒天培地などで直接分離培養するとともに、アルカリペプトン水、7.0% 塩化ナトリウム加トリプチケースソイブイオン、カンピロバクター選択増菌培地（プレストン組成）、ラポポート・バシリアディス培地などを用いて増菌培養し、直接培養と同様な培地で分離培養した。寒天平板培地に疑わしい集落が発育した場合は、釣菌して、TSI、LIM 寒天培地などを用いた生化学性状試験、血清型別、毒素型別、PCR を用いた病原遺伝子の検出などの試験検査により、食中毒細菌の同定を行った。また、

分離されたEHECは、「腸管出血性大腸菌MLVAハンドブック（0157、026、0111編 第一版 地研協議会 保健情報疫学学会マニュアル作成ワーキンググループ編）」に従って遺伝子型別を行った。寄生虫が疑われる場合には、平成28年4月27日付け生食監発0427第3号「*Kudoa septempunctata* の検査法について」及び平成26年5月26日付け事務連絡「食中毒患者便からの*Kudoa septempunctata* 遺伝子検出法（参考）について」に基づき検査を行った。

ウイルス検査は、糞便（数グラム程度）をリン酸緩衝液（pH 7.5）で約 10% 乳剤とし、10,000 rpm で 20 分間遠心した。この上清から RNA を抽出し、逆転写酵素を用いて相補的な DNA を合成した。さらに、ノロウイルス等の遺伝子に特異的なプライマーを用いて PCR を実施し、増幅産物を電気泳動で確認した。増幅産物が確認された検体については、さらにシーケンスを行い、その増幅産物の塩基配列を決定し、ノロウイルス等の確認及び遺伝子型の決定を行った。また、一部の検体について、イムノクロマトキットを用いてロタウイルス及びアデノウイルスの抗原検出を行った。

3 結果

2023 年度の食中毒（疑い）事例において病因物質として疑われる病原微生物が検出された事例、若しくは病因物質が特定された事例は 31 事例中 22 事例（71.0%）であった（表 1）。

病因物質別では、カンピロバクター属菌によるものが 7 事例（22.6%）、ウェルシュ菌によるものが 2 事例（6.5%）、腸管出血性大腸菌によるものが 2 事例（6.5%）、クドアによるものが 2 事例（6.5%）、ノロウイルスによるものが 9 事例（29.0%）であった。なお、ウェルシュ菌の 2 事例の

うち、1事例は黄色ブドウ球菌も病因物質疑いとして検出された。9事例から検出されたノロウイルスの遺伝子型の内訳は、GII.2(3事例)、GII.4(2事例)、GII.6(1事例)、GII.7(1事例)、GII.17(1事例)及び型別複数(GI.3、GII.7、GII.2)検出(1事例)であった。病因物質が検出されなかった、若しくは、特定されなかった事例は31事例中9事例(29.0%)であった。

表1 2023年度食中毒(疑い)事例で搬入された検体と検出された病因物質

番号	所轄保健福祉(環境)事務所	初回検体搬入日	搬入検体数	細菌検査分					寄生虫検査分			ウイルス検査分					主な病因物質	
				喫食者便	従事者便	ふき取り	食品	菌株	計	喫食者便	食品	計	喫食者便	従事者便	ふき取り	食品		計
1	粕屋、宗像遠賀	4月14日	5						0			0	5			5	ノロウイルスGII.2	
2	北筑後	5月2日	1	1					1			0	1			1	カンピロバクター・ジェジュニ	
3	嘉徳鞍手	5月9日	9	3		6			9			0	3			3	カンピロバクター・ジェジュニ	
4	筑紫、宗像遠賀	5月17日	17	14					14			0	17			17	ノロウイルスGII.7	
5	京築	6月2日	1	1					1			0				0	不明	
6	嘉徳鞍手	6月4日	14	5	4	2			11			0	5	7	2	14	ノロウイルスGII.2	
7	南筑後	6月5日	18	5	4	3	5		17			0	6	4	3	5	18	ノロウイルスGII.2
8	南筑後	6月17日	13	3	5	5			13			0	3	5	5	13	不明	
9	宗像遠賀、嘉徳鞍手	6月27日	13		2	9		2	13			0				0	腸管出血性大腸菌0157	
10	粕屋	7月1日	2	2					2			0				0	不明	
11	筑紫	7月6日	8	1	2	4		1	8			0	1	1	4	6	カンピロバクター・コリ	
12	南筑後、筑紫	7月14日	9	3	1	5			9			0	3	1	5	9	カンピロバクター・ジェジュニ	
13	嘉徳鞍手	7月24日	31	13	6		12		31			0	6	6		12	ウェルシュ菌、黄色ブドウ球菌	
14	糸島、嘉徳鞍手	8月9日	8	8					8	8		8	6			6	クドア	
15	南筑後	8月10日	19	5	3	9	2		19			0	4	3	9	2	18	不明
16	京築	8月18日	2	2					2			0	2			2	カンピロバクター・ジェジュニ	
17	粕屋	9月3日	1	1					1	1		1	1			1	不明	
18	南筑後	9月5日	35	10	13	6	6		35			0	10	9		19	カンピロバクター・ジェジュニ	
19	筑紫	9月6日	1	1					1			0				0	カンピロバクター・ジェジュニ	
20	筑紫、南筑後、京築	9月21日	8	8					8			0	8			8	不明	
21	宗像遠賀	9月21日	1	1					1	1		1	1			1	不明	
22	筑紫	9月28日	1	1					1			0	1			1	不明	
23	嘉徳鞍手	10月31日	1	1					1			0				0	不明	
24	筑紫	11月18日	21		7	10		4	21			0				0	腸管出血性大腸菌0157	
25	嘉徳鞍手	11月25日	1	1					1			0	1			1	ノロウイルスGII.6	
26	筑紫	1月9日	1	1					1			0				0	ウェルシュ菌	
27	糸島、南筑後、田川	1月12日	16	7	5	4			16			0	7	5	4	16	ノロウイルスGII.17	
28	筑紫	1月19日	15		7	6			13			0	2	7	6	15	ノロウイルスGII.4	
29	京築	1月20日	13	3	3	5			11			0	3	5	5	13	ノロウイルスGII.4	
30	筑紫	2月3日	2	2					2			0	2			2	ノロウイルスGI.3、GII.2、GII.7	
31	京築	3月23日	15	2	7	5	1		15	2	1	3	2	7	5	1	15	クドア
	合計		302	105	69	79	26	7	286	12	1	13	100	60	48	8	216	